

カンムリカイツブリ（カイツブリ科） 全長56センチ

カンムリカイツブリは2004年に秋田県（八郎潟と小友沼）で初めて繁殖が確認されました。県南内陸部ではとても珍しい鳥でした。日本野鳥の会秋田県支部長の佐々木均氏が、2009年横手市で初めて繁殖を確認。

私は2008年11月、神宮寺の大浦沼に飛来したのを初めて撮影していたが、当時は珍しい渡り鳥でした。その後も大浦沼に不定期に飛来していたが、いずれも1羽だけで繁殖の気配はありません。

横手市では蛭藻沼と安本大堤、櫛沢沼などで繁殖しているが、大浦沼の自然環境は横手市と比べてもほとんど差があるとは思えませんでした。



2008年11月、大浦沼で最初に飛来が確認されたカンムリカイツブリ（冬羽）

ただ一つ、気になることがあります。釣り人の多さです。

大浦沼の釣り人は、釣り糸を遠くまで投げ入れるルアー釣りがほとんどです。さらに沼の周囲は農道が整備されていることから、釣り場所を頻繁に変えながら移動します。

カンムリカイツブリにとっては、安心して浮巢を作ることが出来なかったでしょう。こうした状態が長年続き、繁殖は無理だろうと諦めていた処です。



7月、丈夫な浮巢を作り抱卵中。



真っ白い卵が見えました。

しかし、今年は6月ころからカンムリカイツブリ2羽が毎日観察されてきました。もしかして繁殖行動が見られるかと淡い期待をかけながら眺めていました。

そして7月12日、ついにカンムリカイツブリの営巣地が見つかりました。釣り糸が届かない岸边から離れた繁みの淵です。ここなら安心でしょう、よくぞ見つけてくれました。この後、無事にヒナの誕生を見届けるまで観察を続けることにした。

7月21日、巣の中で抱卵中の親が立ち上がった瞬間に卵が確認された。

8月9日、親鳥の背中に乗ったヒナ3羽を撮影。大浦沼に飛来を確認してから17年目で、念願のカンムリカイツブリの繁殖を見届けることが出来ました。将来も継続されることを願っています。



親の背中に乗ってお散歩中。



少し離れた水面では、若いカンムリカイツブリが見つかった。別の場所で生まれた若鳥でしょう、だいぶ大きくなっています。背中にはヒシの実がくっついていきます。